STOP！

STOP！住宅防火シリーズ⑤　火災から大切な命を守ろう

電気火災

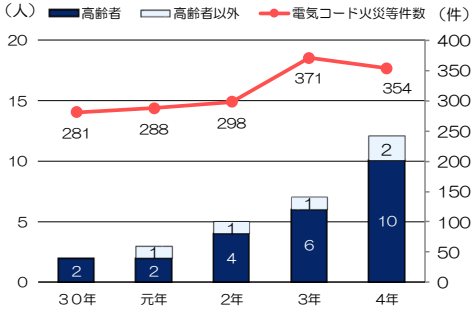
身近に潜む電気火災危険

電気火災とは、電気や電気製品にかかわる火災のことをいいます。

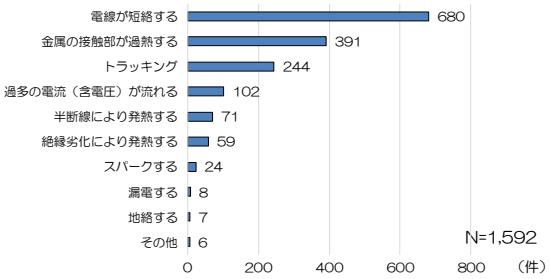
■　電気火災の中でも電線の短絡・トラッキング・半断線等によって起こる火災（以下「電気コード火災等」という。）は、**火を使用している意識がないため、火災に気付きにくい**特徴があります。

■　電気コード火災等は増加傾向にあります。電気コード火災等による死者数は年々増加しています。

■　電気コード火災に至る経過として、電線の短絡、金属の接触部過熱、トラッキングの順で発生しています。



電気コード火災等の件数及び死者数
（平成30年～令和4年　住宅火災）



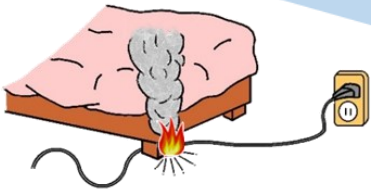
経過別の電気コード火災等件数
（平成30年～令和4年　住宅火災）

東京消防庁

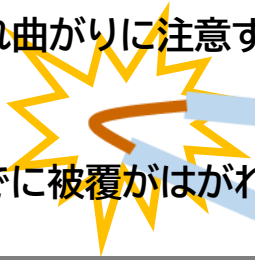
電線の短絡（ショート）・半断線

電気コードの家具等による踏みつけ、束ねての使用、折れ曲がったままの使用は、電気コードの被覆の損傷や温度上昇、経年劣化による短絡（ショート）、半断線による発熱を引き起こし、火災の原因になります。

- **電気コードを家具の下敷きにしない。**
- **束ねて使用しない。**
- **折れ曲がりに注意する。**



※ 半断線とは、コード内部の線が一部断線した状態のことをいいます。



- **すでに被覆がはがれているコードは使用しない。**

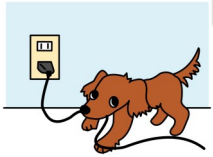
死者が発生した火災事例

半断線により出火した火災

この火災は、何らかの荷重がかかったことによりテーブルタップのコードが半断線状態になり発熱し、周囲にあった衣類に着火して火災となりました。この火災により、居住者2名（女性・40歳代、女性・70歳代）が亡くなりました。

小動物が原因となった火災

冷蔵庫のコードをねずみ等の小動物がかじったことにより配線が短絡し、火災となりました。この火災により、居住者（男性・60歳代）が亡くなりました。



普段利用している電気製品から
<u>気づかぬうちに</u>出火しています！

金属の接触部の過熱

プラグがコンセントにしっかり差し込まれていなかったり、プラグの差し刃が変形していたりすると、過熱して火災の原因になります。

■ **プラグはコンセントにしっかり差し込む。**

■ **プラグ・コンセントは変形等がないか定期的に点検する。**

トラッキング

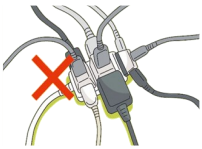
コンセントに差したプラグの差し刃の周りにほこりが付着していると、湿気を帯びたほこりが電気回路を形成し放電を繰り返すことで火花が発生し、火災となります。

■ **コンセント周りは定期的に点検・清掃する。**

■ **使用しないプラグは抜いておく。**

■ **家具や大型家電製品の裏など、見えにくい場所のコンセントには特に注意する。**

過多の電流



電源タップを決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因になります。

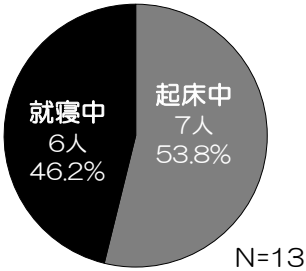
■ **電源タップは決められた容量内で使用する。**

住宅用火災警報器で早期発見

■ 電気コード火災等によって亡くなった方は、約5割が**就寝中**に発生した火災により命を落としています。

■ 住宅用火災警報器は火災の煙や熱を感知し、警報音を発します。

■ 住宅用火災警報器を**全ての居室・台所・階段**に設置することで、火災が小さいうちに発見し、自分の命を守ることができます。



電気コード火災等発生時の
死者の行為状況
（平成30年～令和4年住宅火災）
※行為状況不明16人を除く

設置していてよかった住宅用火災警報器

共同住宅の居住者(男性・30歳代)の居室で、長年電気コードが極端に折れ曲がった状態で使用されていたため、内部の線が半断線していました。半断線により電線に過度の電流が流れたため、発熱し、短絡して火災となりました。

隣人が、住宅用火災警報器の鳴動音に気付き119番通報するとともに、消火器で初期消火を行ったため、火災の延焼を防ぎました。

適切な維持管理を

住宅用火災警報器がホコリなどで汚れている場合、火災を感知しにくくなります。定期的に乾いた布で拭き取りましょう。

また、設置後10年を経過したものは電子部品の劣化等により火災を感知しなくなるおそれがありますので、**機器本体を交換**しましょう。

点検も忘れずに！

※一般的に点検の際の音声等は自動で停止します。

問　合　せ　先

東京消防庁 防災部 防災安全課　電話番号 ０３－３２１２－２１１１　内線４１９６

令和５年１０月発行